

事務事業名	小中学校PTA連絡協議会活動支援事業				☒ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課	
施策名	23	子どもを見守り、育てる地域づくり			所属係	生涯学習班	課長名	野本 立一	
基本事業名	89	地域における子育て支援			担当者名	荒牧 聡	電話番号 (内線)	096-248-5555 1503	
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 01	事業	社会教育総務費	法令根拠	合志市社会教育関係団体活動事業補助金交付要綱	
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 市内小中学校PTA連絡協議会への補助金の交付 (業務の内容) 連絡協議会からの補助金交付申請書を受理する。申請書審査後交付決定となれば交付決定書を発行して連絡協議会長からの請求書を受け、補助金を交付する。 (予算の内訳) 負担金補助及び交付金(397,000円)						総投入量	財源内訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費	事業費計 (A)	0
							人件費	正規職員従事人数	
							延べ業務時間		
							人件費計 (B)	0	
						トータルコスト(A)+(B)		0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

合志市小・中学校PTA連絡協議会(小学校7・中学校3)に対して、397,000円の助成金を交付

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

合志市小・中学校PTA連絡協議会

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

PTA連絡協議会の活動を活発に行ってもらう。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

地域で子どもを見守り、育てていく

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 助成金の額	円
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア PTA連絡協議会の会員数	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア PTA連絡協議会の活動に参加した会員の数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 地域で子どもが見守られ、育てられていると思う会員数	人
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	441	441	397	397	350	350	350
			事業費計 (A)	千円	441	441	397	397	350	350	350
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	16	16	10	10	10	10	10	
		人件費計 (B)	千円	40	40	40	40	40	40	40	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	481	481	437	437	390	390	390	
活動指標		円	441000	441000	397000	397000	350000	350000	350000		
		人	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400		
対象指標		人	未集計	未集計	未集計	2,500	2,700	2,800	3,000		
		人	未集計	未集計	未集計	1,000	1,200	1,400	1,600		
上位成果指標		人	未集計	未集計	未集計	1,000	1,200	1,400	1,600		
		人									

合志市

事務事業名	小中学校PTA連絡協議会活動支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
市内小中学校のPTA連合の支援を目的に始まったが、始まった年代は特定できない。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
子どもを対象にした悲しい事件事故が相次いで発生し、またいじめの問題がクローズアップされるなど、子どもを取り巻く社会的環境はますます厳しさを増している。
子育ての問題がより重要視されていく中、家庭、学校、地域での連帯した取り組みを推進すべき時代になっている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
子育ての問題がより重要視されていく中、地域における子育てを保護者たちが主体的に推進することを求める意見がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 団体への支援を通して、積極的に子どもを見守る地域づくりにかかわってもらうことで、政策に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 子どもたちの保護者による大きな団体での地域づくりへの貢献が期待できるため、この助成事業は妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 現状では、対象、意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 PTA活動への要請は、各方面から多岐にわたっており、現在も活動のレベルは高い。現状からの成果向上にはPTAへのさらなる負担を強いることになる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 PTAが取り組む地域からの子育て活動の推進を困難にし、団体の存続を脅かすことになる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 よほどのことがなければ、各種団体の運営に関与すべきではないので、とくに活動が積極的な団体の成果の向上は難しい。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 団体等への助成金は、市全体での見直しが必要であり、それに伴い金額が削減されることも考慮しなくてはならない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 助成金の交付や事業実績の確認など、必要最小限の事務であるため、削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 PTA連絡協議会の活動は活発で、助成金のレベルを超えていると思われ、公正さは保たれている。

合志市

事務事業名	小中学校PTA連絡協議会活動支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

PTAは、地域における子育ての推進に大きな力となるが、子育て関係の事業は他にもいろいろあるため、余力を絞っていくように活動していく面もある。

活動の原資となる補助金も、市全体での見直しの中で削減されることもあるため、PTAの活動も焦点を決めるようなやり方が望ましい。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

PTAは、地域における子育ての大きな力であるが、子育て関係の事業は他にもいろいろあるため、余力を絞っていくように活動していく面もある。

活動の原資となる補助金も、市全体での見直しの中で削減されることもあるため、PTAの活動も焦点を決めるようなやり方が望ましい。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持	○		×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

PTAは、地域における子育ての大きな力であるが、子育て関係の事業の他にもいろいろあるため、活動の焦点を絞っていくことが必要ではないかと思われる。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項